朝鮮日報

紀元二千五百六十五年　韓光武九年　清光緒卅一年　陰曆甲辰一月十九日

定價　一ヶ月　金參拾錢（郵送料共）
廣告　五號活字一行　金拾錢
發行所　朝鮮日報社　釜山辨天町二丁目
發行兼編輯人　印刷人

鐵道列車

論説

在韓佛教家に文書的傳道の必要を勸告す

孤嵒

予や嚢に淺識を不顧、韓國布教私見を公にし、大方の示教を乞へり、今又其續篇とも見るべきものを表白して、在韓佛教家に呼號する所あらんとす、文辭の拙劣を咎めず余が佛教外護の念慮を嘉納せよ、

苟も文字なくんば止なん、既に文字あらば宜しく之れを媒として意思を通達すべし、苟も交通機關備はらずんば止なん、既に之れ備はらば、須らく之を用ゐて相互に意思を通ずべきなり、往時交通機關未だ完備せず、印刷事業未だ發達せざる時代にありてすら、術文藝の士文書的傳道に從事せるものあり、然るに今や交通機關の完備と、印刷事業の發達とは、吾國に於て、振古未だ嘗て見ざるところにして、延て蒙昧未開の韓國亦我邦人の手により此兩機關は備へ付けられたるにあらずや、眞に通信傳道を興起すべき最好時機なりといふべし、此時に當りて、それ、之れを利用するなどを圖らずして、但に口音陳唱の一手段のみに依頼するは、之れを嘲りて迂闊と云ひ、隔りて固陋といふも、蓋し陳腐の迹なかるべきなり、うれ口音陳唱により寺院に集會せしめて教を布くは此の日を逐ふて、事務頻繁に赴き、時に隨ふて人事匆々を極むる社會に適當なりと云ふ能はず、蓋し斯の如き社會は寺院に往詣する閑日を有せず、況んや外國に出で商權を擴張すべき務劇に鞅掌しつゝある居留地人士に於てをや、これを以て寺院に集會し説法談義を聽聞するものは多くは老翁老媼の閑人輩にして社會組織の要素たる壯年青年の男女の集會するを見るに及ばず、夫れ佛教の陵夷せるものは其原因一々ならずと雖、主として青年壯年の心裏に其教理を鼓吹せざりしに歸す、然るに今日の状況を察するに正に新舊兩思想の交換を行ふべき過渡の時代にして、舊思想に適合せる布教は新思想の悦ぶところとならず、新思想の悦ぶところの布教は舊思想の厭ふところなるを以て、布教の方法に尤も困難を感ずると雖、一方より之を觀察すれば、寧ろ今日を措て布教の最良時機はあらざるなり、何となれば、未だ宗教的營養物を充分攝取せざる新思想の青年をして、進んで迷界裡に彷徨せしめず、以て佛教道徳の下に安立せしむるは、將來佛教の地盤を鞏ふし、以て益々隆盛の域に進ましむべき捷徑なればなり、思ふに現時に於て多少の文學あるものは、最も青年壯年の者に限らる、而して是等の者にして寺院に參詣せざるは、一は業務の繁劇なるにより、他は舊思想に關せる說法談義を聞くを欲せざるに由れり、尚又韓國は我と同一の漢字あるに拘らず、其國民の上に傳教を布く能はざるは其原由する所、全く漢字を巧に利用せざるにあり、これ等求法者を會せざるものは果して教化せずして止まんか、此の最良なる佛教の新開拓地に法苗を播かずして止まんか、否々否しや文明の利器を應用して之を耕し之を耘りて良稻を下さゞるべからず、文書的傳道の必要茲に於てか起る、（未完）

慶尚道事情に關する釜山領事館の調査（續）

衛生（二）

右に釜山居留地役所取調に係る明治三十一年より同三十五年に至る五ヶ年間の本邦人死亡者の病名類別並に傳染病患者及死亡者數を參考のため掲ぐ

一死亡者病名類別

病名　肺炎、腦膜炎、腸胃加答兒、肺結核、腹結膜、發育不全、腸炎、腦充血腦貧血、腦水腫、氣管支加答兒、心臟病、腹膜炎、胃腸食道炎、肝臟炎、老衰病、子宮病、赤痢、脊髓炎、梅毒性、腫瘍、雜病内臟出血、中耳炎、リウマチス、腸炎

三十一年	計	百十三名
三十二年	計	百五十二名
三十三年	計	百二十一名
三十四年	計	百六十三名
三拾五年	計	二百〇三名

一、韓人衛生

一般韓人の胸裡には衛生思想の如きは未だ毫も存在せず塵芥は道路に堆積し人畜の排泄物は所々に散在し家犬は其間を遊々して食物を尋ね又排泄物を舐む特に夏季に於ては異臭紛々として鼻口を突き無數の蒼蠅は群集飛散し其不快なるも實に言語に絶へず

入浴の如きは彼等の殆んど行はざる所にして特に都會には浴場の設けありとか聞けど個人の家には素より浴室の設けあらず只だ毎朝顔と手を洗ふ位に過ぎざるなし、醫師は所謂漢法なれば其手腕は推して知るべきのみ種痘の如きも未だ普く行はれざれば從て小兒の痘瘡に罹る者多く又顏面痘痕を有する者多し人類の衛生の如し家畜衛生の如きに至りては韓人の固より夢想だもせざる所なり故に各種の傳染病は思ふが儘に其威力を逞ふしつゝあり殊に小兒が各種病氣のため斃るゝこと多きは最も著しき事實にして斯る自然の陶汰を經て殘存し居る韓國人のあどなれば其人々の稀少なる原因も蓋し衛生不完の點に胚胎するあと多からんと信ず

第拾七、度量衡

本道に於て普通韓人間に使用せらるゝ衡器は其標準の定量の為め種類頗る多く又其構造精確なるに及ばず定量の如きも大に異なる名稱は之れを分ちて斤、兩、錢、分となす即ち本邦現今の稱呼に比するに分を分ち匁を錢とし百六拾匁を一斤と斤とを為し大數に至れば積算して拾、百、千、萬斤、或は拾、百、千、萬兩に及び而して其衡器は普通市場に販賣せらるゝものは本邦の竿天秤と同樣のものより大は二貫目量位迄のものを多しとし其以上は本邦の通稱試み秤の方法を用ひて各自臨時に製造使用するものとす

尺度は本邦の尺度と使用法共に本邦のものと異なる所無く其定作上多少長短あり即ち韓一般の尺は本邦曲尺一尺三寸六七分に當り又稱稱は尺、寸、分等本邦と之れを同しくし其上は拾、百、千尺を以て數へ織物類は四拾尺の稱號なす

右尺度以外に量田尺なるものあり量田尺は周尺の四尺七寸七分五厘を以て定められたるものなり而して周尺一尺は本邦曲尺六寸七分二厘に當り但し此周尺は往時の官衙の使用して田圃の地積を量るには一尺平方を一把、十把を一束、拾束を一負、百負を一結とす即ち一結は周尺一萬尺平方に當るなり又田圃には自然良否の等差なるを以て一万尺平方を一結を基本率となし一等田は一万尺平方面積を一結し二等田は同八拾五負、三等田は同じく七拾負、四等田は同じく五拾五負、五等田は同じく四拾負、六等田は同じく二拾五負に區別し以ての標準とし賣買讓與も亦稱呼に從ふが故に乘率は常に一等地を一として二等地を〇、八五とし三等地を〇、七〇とし四等地を〇、五五とし五等地を〇、四〇とし六等地を〇、二五とし此乘率を量田尺に依りて計算したる面積に乘ずるときは負を得べし而して其端數は五捨六入の法に依り五把以下切捨て六束以上を收めて束とす、今前記の各等に於て一結の面積を我反別に換算するときは凡そ左の如し

一等地一結	我八反七畝一歩餘
二等地一結	我一町二畝拾一歩餘
三等地一結	我一町二反五畝九歩
四等地一結	我一町五反八畝
五等地一結	我二町一反七畝拾六歩
六等地一結	我三町四反八畝二歩
平均一結	我一町七反三畝一歩五

又通常民間に於ては田畑の面積を呼ふに斗落を以て數へ斗落とは單に一斗の種子を落すに足るべき面積を云ふ意義にして其大さは田地と畑地とによりて各々殊なれども要するに一斗落の田地面積は一等田の四負乃至五負、四五等田の一負乃至二負位に當れりこれを本邦の坪數に比するときは約百二拾坪位に當るべし但し畑地の面積は田地面積の約半に當す又斗落に對する以上面積の廣狹は其地の良否及灌漑上の關係等によりて之れが差異を生ずるあとは勿論なりとす

量器中斛は普通市場に行はるゝものに一斗桝、一升桝、五合桝等あり而して其斗の數は升數とは全然無關係にして本邦の約七升五合に當る此量は後段階に於み使用せられ一斗を單位とし拾斗を一石と呼び一石を以て一俵とし又升數多く市場の賣買上に使用せられ俵裝等に關係ある數なり但し一升は本邦の約四升五合に當る、一合乃ち一升を拾分したるものなり

通信

●大邱通信（十九日　特派員發）

▲漢城の虎來らむ　電話あり漢城の何の事なるを知らざりしが昨日に至り慶尚北道觀察使張承遠氏は突然辭官を以て後任として漢城政界の大立物李容翊氏が赴任すべしとの事也を確め得たり然し同氏が活躍せる中央政界を去て慶尚地方に臨むに至るに就ては其間何か特別の事情なくして叶はざるとて大に注目を惹き此際多少の揣摩説もなきにあらざるが同氏が果して一觀察使として赴任するや否やは今日の處未だ確說と云ふにあらず但一般に事實として傳せられつゝあり姑く記して後報を待たん

▲前觀察使留任運動　觀察使張承遠氏辭官となれるに就ては當府に於ける一部韓人間に於て之れが留任運動を爲さんとする一部の者もあり又た或る一部の本邦人間に於ても其職あるやに聞けり如何にや因みに同觀察使は慶尚道院出の人にして昨秋來任したるが未だ別に認むべく不可もなく所謂讀書も無かず屁も垂れぬ底の人物なりしやに聞けり

▲電話加入者　大邱に電話加入の企あるとは既に報じたるが今日迄の調査にて既に加入者六十名に上れりとたれ共愈々設備を見るは多分本年末頃となるべく且つ當分は市内に止め京山馬山間に別に長距離電話として聯絡を保つべしと

▲昨今の商況　現今に於ける取引品の重なるものは紡績糸、金巾、明太魚、石油、燐寸等にして就中紡績糸の需用盛なるは各市毎に金巾と並びて市場の一隅に特に糸市あるものあるにても知らるべしされ所謂當地の特産物太布木綿の牛は前身とも云ふべきものにして韓人は糸を買ひ行き木綿を織へ來り糸市の傍には必らず木綿市を見るにても兩者の關係を知るに足らむ需用は標準十手十六手最も活潑にして價格は十手二丸壹貫九百六拾文十六手貳貫又位△明太魚は例年年末に於て盛んなる取引を見るものゝなるが殊に客臘に於ける明太魚は最も實に飛なる多少の人氣あつて日頃に各方面の需用も可也取引ありしも今日では平價に復し日々の姿にて大底拾七貫二百文位の處に資れ行き△金巾は目下邸々の商況にて隆印慈貫九百五拾文軍人印壹貫八百文位の處にあり△石油燐寸は各市街共相應の捌けあり花油上松票尤も賣行宜しく貳貫千五拾文位端票は貳貫文内外△燐寸は双鹿、一鹿、福壽、象標等の各種類あるも一鹿標最も信用あり一鹿貳貫五百文双鹿貳貫四百文を保てり然して一般の商況は尚未だ活潑ならず各商況も休業同樣の姿なりしが本日當りの例市より漸く多少の活氣を浴べ來りたる模樣也

▲市井のくさ〜〜　今日の民會役場の位置は何かにつき不便なる場所にあるが西門内日本警察署近傍なる舊鐵道隊事務所跡を借り受け近々移轉の都合也と▲客臘より休業中なりし鐵城學校は本日より授業を開始せり▲當地某々氏等の發起にて南門外に劇場を設けんとの噂あり▲此程建上家樓なる青樓南門外に現はれ釜山佐須士輩輸入の韓妓八名を置きて開店▲昨今朝鮮正月とて韓人は毎夜南門外練兵場の廣場に於て例年の如き綱引をなし一昨日などは大望日（正月十五日）のことて殊に賑ひたり▲附近の韓人にて正月の閑暇を利用し遊事見物に出掛けるもの多し

を傷ひ、いざ去らば彼が夢幻琴に就て再び之を言はんか、余れ彼を散漫なりと云はん、彼れ自ら明瞭なりと答ふ、明瞭乎、散漫乎、今は只他人の批評に待んのみ、然れども記せよ、彼の精神病者は、自己の異状あるを覺らずと聞く、是れの天才に誇りて漫に粗大なる病的の人は悲んず、自己の瑕瑾あるを知らんや、且つ彼は嘗て朦朧と評せられたる人に對し自ら誇り、得々として朦朧を謳美したるの徒に非ざるか、余も亦彼が文の朦朧たるを難ぜず、今や彼れ却て其夢幻琴に於て明瞭を以て答ふ、朦朧と明瞭、何ぞ矛盾の甚だしきや彼が昏迷概ね此如のみ、彼亦次ぎて余が意の激せるを誡む然らば問はむ喜怒哀樂とは、人の通情に非ざるか、彼の驕傲を怒りて之の謙讓を愛し、彼の妄誕を排して之の常理に服す、是れ誡むべしと爲すか、余は文士にあらず、然れども文士は喜怒哀樂の表情を包むべき、非人性たらざるべからざる乎、而して大文章は此非人性の者にあらざれば爲し得ざりと信ずる乎、若し夫れ重箱と言ひ小刀と呼び、非常識と誇るに至りては余れ亦何をか言はむ、只彼が噪狂より醒むるの日あらんを待たんのみ、余猶誨ふるに倦まず劍風說ありや（了）

深村君と公開狀

天奴

深村君浪客黑潮子に與へし公開狀を手始めに君の公開狀多々數を知らず而して其文ぬ觴にして老練なる敵するに耐へたり其日報より轉じて時報に映ゆるや千編一律にして幾編を重ね讀むに苦しむ試に數編を一括して讀過せんか睡氣交々從來するを覺えて茫乎其文意の何所にあるを知らざるなり嗚呼千編一律之れ深村一流の特長か妄言多謝

小品文

誨ふるに倦まず

ヨ南生

吾人ありて路に迷へり、我若せよと言ふ、彼往僻めるが故に左あず、我敢はざるも可なるか否、人に擾くあらば、我敢はざるべからず、悲れ人の性也、非也、傷すぎる也、抑亦膩貴なれば也、剣風少しく之に似たらずや、夫れ余の剣風を言ふ、誇るにもあらず、嘲るにもあらず、況んや趣味なきに嗤はん、乞ふ嗤狂ならずして、之を聞け、余は剣風の文を愛惜す、獨くも彼が嶄新の何ぞ彼が高調の調どは、儻かに俗界に遠きを知る、去りながら、彼に憾むべき者ありとせば、ろは思想の散慢なる也、文意の論、諦なる也、余りに高く思索して、其本を没了し去るにある也、假令ば剣風は狂花の如き、既に咲ける花は其容艶なりと雖實を結ばず、狂才長なへに名を成す能はざる所以也、また此理にありと知らずや、若し又彼が才能をして現實の理想の境に一九結ぶある乎、彼は文家なる乎、顧剣風先生或は然りし也、彼が所謂自然派ならん人に近き者乎、予は茲に於て彼が狂才と時に天才

新体歌

●折にふれて（三）

くろしほ

〔最新萬葉集〕

花咲けば人の訪ひ來ぬ我庵の、澁茶廿しとお世辞言ひつゝ。
蹴つて捨つ仇なる花の香や、誰が捨にけん梅咲く園に。
春雨や庄屋が庭は山つゝき、杉山暗く鴉啼く聞ゆ。
黒船もれほろに讀む春の海、友呼ぶ海人に聞あはず千ず。
春の風桃李白桃吾妹子が、旅立つ我を送る庭の面。

俳句（四）

●春雑吟

梅咲いて嬉しのろがし座掃除　郁女
おほけある人訪ふ茶の家　仝
梅の月今宵初めて句を詠みぬ　可水
讀打つて草鞋を作る梅の主　仝
梅を見て鶯聞いて春あらん　還舟
梅折つて鶯飛びし諷かな　仝
春雨や笑みたる山を去つてより　仝
花の下暮と共に暮りけり　仝
此處に花それの垣根の草萌ゆる　八重女
花質や咲かざる□を束にして　仝
接木して春雨の夜を文書きぬ　仝

▼春の句を募る▲

朝鮮日報

社說

戰時の經濟（其二）

昨春開戰以來我國が戰役の爲に費消したる金額は昨年度に於て五億七千六百萬圓に達し本年度に於ては更に七億七千六百万圓の巨額を以つて豫算せらる知らず我國民たる者克く空前の大費額に堪へて交戰の目的を達するに於て躊躇する處なきか日清戰役以來我國力は非常の速度を以て多大の發展を遂げたりと雖も前途遼遠なる大戰役に對し空前の大費額を負擔するに於て充分の余力ありや否やは實に天下の疑問にして識者の縱に憂ふる所なるも余輩の觀察する所を以てすれば其の杞憂たるを證して余りある者あり請ふ遲慮なく說せしめよ

抑我國は幅員狹小にして開國漸く五十年に過ぎざるを以て僅々の歲月に於ける長足の進步は國力の發展と相伴はざるの觀あるは常に凡眼に映ずるの事實なり然るに日清戰役に當り一朝一億六千万圓の軍費を支出して克く交戰の目的を達したる結果は國力發展の一大動機となり內は商工業の勃興すると共に外には貿易の旺盛を極め一時過度の起業熱に驅られたる現象は三四年前に於て多少經濟界に恐慌を來たしたる事實あるも未だ國力發展の上に消長するの程度に達せず左れば今回の戰役に於て國民が遺憾なく軍資を供給し擧國一致克く軍隊の後援に任じつゝあるも要するに經濟上の基礎已に固ければなり

世俗謂はずや無き袖は振る能はずと如何に忠君愛國の思想に富む我國民と雖も果して袖なからんには斯の如き空前の大費額を支へて悠然たるの態度を取り得可らざるべし

人或は言はん今や內地に於ける狀態は日一日に不景氣の聲を高め此の戰爭の繼續する場合は容易ならざる困難に遭遇すべしと夫れ然り夫れ然らざらんや戰爭なるものは固より國家の大患なり多大の決心と非常の困難に堪へざる可らざるは當然のみ然れども日本銀行最近の調査に依れば我財力は實に百十七億の大數字を以て算せられ天野文學博士は我國に於ける生產力の發展は毎年三億以上に達することを說く更に我邦の統計を以てすれば全國の民有財產のみにて九十七億を算し放資力の明に數字に依り得べき者のみを擧ぐるも最近五ヶ年を平均したる諸銀行の預金は年々六千七百九十二万は郵便貯金に於て百五十九万圓地方債の應募額に於て一千七百二十八万圓株券拂込額に於て五千九百五十九万圓計一億四千六百万圓の巨額を示したり其他內外各種保險會社の拂込に於いて個人事業の增資に於て經濟機關なき寒村僻陬に居住する同胞の綜底に貯へらるゝ資本においてより以上の數字を示し得べきは天野文學博士の三億以上說に吻合するを認む三億多額なりと雖も實は百億の財に對する三朱の利子たるを知らば此の多大なる發展力を確むるの上において思ひ半ばに過ぐる者あらん然り此の多大なる發展力を有する國民が尙克く資本循環の原則を解して國難に當るの擧に出でんか戰役の百歲に亘るあるも亦恐るゝに足らざるべし殊更戰爭の初期において已に海上權を掌握し今や東洋の海上に敵の艦艇を認めざる時に際し戰勝國の名譽を負へる我輸出品の海外に歡迎せらるゝの事實は戰爭以前において常に輸入超過を見たる貿易上の現象を一變して輸出增加に傾かしめ現に横濱における昨年中の貿易は一昨年に比して一千九百万圓以上の輸出超過を見たるに徵すべし然るに內地における商品の不捌は事業の萎縮を來たし非常の不景氣を生ぜしめたり其の然る所以は國債の應募非常特別稅の賦課出征兵士家族の救護其他各種の不生產的消費に依りて資本の供給を減殺したる財界の關係あるは固よりなるも一層密接にして大なる關係を有する者は戰爭の慘狀以外にして多數の戰死負傷者を出したる爲め悲痛哀悼の情に驅られ自然に自己の慾望を抑へ國家に貢獻せんと欲する熱誠なる國民の義勇奉公に凝りたる結果其の多きに居るべし左れば不景氣現象を見て直に資を財源の枯竭に歸するは誤れるの甚しき者なり然れども源因の如何なるを問はず將來に向て生產力の發達を阻害し經濟界に對して影響を及ぼす点に於ては其揆一也國民たる者亦大に省みざる可らず（方外）

東京電報

●教育費補助案可決（昨廿一日午後七時十分着）
衆議院委員會に於て淸韓教育費補助案可決せり

韓國雜事

●官制改革の進捗 韓國官制改革案調査は其後大に進捗し昨今既に其案件書類の印刷中なるが只學部農商部の存廢のみは未だ決定せざる爲め其運びに至らずと云ふ

●地方觀察使の任命 官制改革の結果地方觀察使の權限を擴張し有力なる人士を之に任命するあとは豫て聞く所なりしが愈々今回左の任命ありたり

任慶尙北道觀察使 李容翊
任咸鏡南道觀察使 議政府參政 申箕善
任京畿道觀察使 崔錫玄
江原道觀察使 朱錫冕
任全羅南道觀察使 忠淸南道觀察使 趙鏡夏
任江原道觀察使 李乾夏
任忠淸南道觀察使 京畿道觀察使 李根敎
任宮內府特進官 慶尙北道觀察使 趙承遠

即ち世人の注視しつゝありし李容翊氏及申箕善、崔益玄氏等が觀察使に任命せられたるは更に注目すべきことなり

●痘苗所仁川に確定 韓國に痘苗所設立の件に付過般來內務省より技師派遣せられ釜山仁川京城等の土地適否調査中の處今回愈仁川港と確定せられたる由也

●痘苗に就て 別項所載の痘苗に就ては元來最初健全なる牛に移植して發生せしめ更に之れを採收する者にして現に同所に於ては十數の痘牛を飼養し一と通り痘苗を採取したる上は之れを賣却し居るが耕作食用孰れにも差支なく決つして病毒の存在する者にあらずと尙痘苗製造の狀況に就いて何人にも縱覽を許す由なり

釜山雜事

●釜山昨今の金融 本邦昨年の豐穰に連れ阪神間に米穀の在荷するもの多く爲めに其相場の下向きなると共に本年六月より新に施行さるべき米穀輸入稅もあれば外國御に對する注文豫約殖へたるが故に釜山に於ける米豆の取引捗々しからず依て昨年常港倉庫充實せる米穀に對し活動の餘地なく從て金融の差異なし最も一方には韓錢相場の騰貴せる傾きあれば之に因するが如き說もあれど更に韓錢に關係したるには非らず以上の事實あるにより輸入も出術を見合せ其機の到るを待ちつゝあれば金融鎭靜に歸し昨年々末通り金利としては三錢四厘內外なりと

●土地所有權登記の必要に就て 近來韓國內地において盛んに韓人の土地所有者及び各種の權利を得る人あるも其所有權名義の移轉に就て明瞭を得ざるにより爲に同一の土地に數人の權利を設立するか如き弊を生ずるより近來二三の同志者相計り是等の弊を除き傍ら土地賣買の周旋に便すべき會社を設立する協議中なりといふ有益の事業といふべし

●沈靜なる釜山の昨今 舊正月にて韓人未だ休業し居る向少なからざるを以て各町一般沈靜殊に西町大廳町各商店の如き全く寂莫といふ感あり

●猩紅熱恐るべき乎 昨年の今日は既に猩紅熱の傳染と共に豫防の聲頗る高かりしが本年は未だ一人の該患者を出さゞるは幸福といふべきなり此際韓人と交通する者は一般注意して其病の傳染媒介者たるべからず

●衛生組合規約（前日の續き）

第十一條 本組合員は左の各項を嚴守すし
組合員は流行病發生期には常導各戶に
べく就き病者有無及各自衛生上有害と認む
べき行爲を警戒す

一、邸內外便所並に井戶下水及溜溝渠は常に淸潔に掃除し其構造の不完全なるものは改造すること

二、傳染病又は其疑ひある患者を生じたる場合は速に醫師の診斷を請ふべし若し醫士の來診を乞ふ能はざる事情あるものは組員は直ちに醫士に通告の手續を爲すこと

三、染病患者を生し交通遮斷を受けたる家の外部に對する用辨は組長において相當の方法により便を與ふること

四、淸潔並に消毒法の施行を命ぜられたるときは組合共同を以て警察官居留地役所員の指揮に從ひ之を施行すること

五、芥溜は常に堆積せざる樣掃除すべし若し傳染病患者の發生したる家屋內及床下の塵芥並に不潔物は總て燒却すること

六、居留地において種痘の施行あるときは組長は其組合內の種痘を受くる年齡の者を調査し接種の洩れなき樣勸誘すること

第十二條 本組合の職員には組合費を以て左の區別に依り報酬を給與す
組長 月手當金參圓
副組長 仝 貳圓
幹事 仝 壹圓五拾錢
但傳染病發生したるときは事務の繁閑に依り稍當の慰勞金を給與することあるべし

第十三條 本組合は其區の經費を負担すべし

第十四條 本組合費は組長において豫め見積り得可き經費額を定め其區の組合總會の議に附し其都度領事の認可を經て施行し支出は次總會において報告する者とす

第十五條 本組合は各區連合談話會を開き各區一致の方針を定め總て衛生上必要の協議を遂くべし
談話會を開設するときは居留民長を經て領事に届出べし

第十六條 本組合規約違犯者に對しては組長は貳拾錢以上貳圓以下の過怠金を徵すべし

第十七條 組長副組長の變更は其都度居留民長を經て領事に届出べし

●喞筒買入と保險金 昨日の常議員會議に於て喞筒買入の件承認せらると同時に早速注文買入するとなるべく然るときは各保險料に大なる影響を及ばし結局二割位引下ぐるに至るべしといふ

●電話架設頻々 昨年中申込みを爲したる電話は交換局の都合により其の滿足を充たし能はざりしが今回整理附き昨今に至り架設頻々の狀態にありと

●鑵詰の第二期 其筋より指定を受け目下製造中なる軍用鑵詰の第二期は明後日を以て締切らるゝ由なるが今日の處兎に角右期限內に指定個數を製造することを得べしといへり

●手島氏の桑苗植付 手島博士は嘗て農商務省の囑託として蠶業に對する智識と談業を賦まれ氏や故郷高崎に於ける蠶業の改良に盡され大に成功を見られたる事あるより渡韓後も養蠶業を韓內地に移植せんとの志望あり一昨年において初め洛東江の附近に桑苗を植付られしが良好なる成蹟を見一反步に約八万本を移植するの途あるに依り韓人にも勸めて植付けを爲さしめられし由なるが昨年は本國に歸省されし爲め其の目的を達し能はざりしも今後大に望みあるあとは全く了解されたるを以て今後該業を益々擴張すべしといふ

●昨日の審査會 當釜山商業者等級審査會昨日午前拾時より商業會議所（物品陳列所）にれいて開會午後一時閉會せり

●昨日の常議員會 昨日午後二時より民役所民長室において開會せり

●本日の役員會 明治三十八年度商業會議所豫算議定の爲め本日午前拾時物品陳列所樓上にれいて開會の筈也

●寄附金募集 喞筒買入寄附金募集の件は屢々記載したるが委員の熱心なる盡力により其後益す〳〵良好にして豫定の金額五千圓以上に達すべしといふ猶今回買入るべき蒸氣喞筒を用ゐ付直に海水を吸引して注入すべきにより非常に效果あるべく又中繼にて二臺の喞筒を据付る時は大廳町の端迄及ばし事も爲し得たるべしといふ

●有吉領事臨席 別項記載常議員會開會に付有吉領事には午後三時より臨席せられたり

●浦上正孝氏の上京 昨年より木浦榮山川の上流拾二三里なる大支面地方にて大規模の農事經營を計劃しつゝありし筑前玄洋社の出身なる浦上正孝氏は過般其契約等萬端を取纏めたるを以て愈よ其實行に着手するの曉となりたるを以て諸般の準備の爲め當地を經て先日のオハヨー號にて上京されたり

●野村事務主任 野村釜山郵便局事務主任は事務觀察として昨日東萊に出張

●加藤局長 釜山郵便局長加藤氏は觀察として馬山浦方面出張中の處本日歸局の筈

船舶出入

◎バイキング 昨日正午仁川に向け回航
◎アンジオ號 本日仁川に向け仝上
◎天然丸 明日入港午後元山に回航す
◎朝鮮日日新聞社員 武內末吉氏は釜本館に投宿中
◎京城實業家 北川淳氏（仝上）

▲商品紹介▼

●米國製輕便瓦ラバロイド、ルーフイングを紹介す（三）

▶住家、廠舍に用ゆる場合
此場合にはラバロイドルーフイングの美觀は到底他の瓦類の及ぶ所で無い、此種の建築の多くは三枚重ね或は三枚重ねにするので平面にして斜面にしても好い、タールヤアスハルトで葺いた屋根は屢々太陽の熱の爲に溶解する、タールの溶けて流れて了るのが壁に付いてゐるのは見惡いものだ。

ラバロイドは鎔けもしない、腐りもしない、亦熱を導かない爲め二階の室を涼しくする、之に反して金屬製の板で葺くと暑にはどんなに暑いかは人の知る處だ、冬にはラバロイドは亦寒氣を禦ぎ且つ隙洩る風が無いから室內の空氣を適度に保つ事が出來る。

ラバロイドは買つて直に使用する事が出來る、そして多少の注意をさへすれば其保存期間は殆んど無限と云つても好い。

ラバロイドの上を步いても決して損ずる事が無い、ラバロイドは無味無臭である、ラバロイド瓦より滴る水は淸潔にして飲料として用ふるも差支が無い。

▲穀倉、家禽小屋、薪小屋等
此種の用途には尤も適當しておる、之を葺くには別の經驗も熟練も入らない、之は專門の屋根葺職人を得られない場合には尤も便利で且つ重寶である、農家などでは半枚も一枚位ゐの葺き方で丁度好い、家禽小屋や倉糧品貯藏所などは此ラバロイドで以て屋根と壁と一時に作る、さうすると空氣の變化を拒いて絕へず其內部を溫かにし且つ健康である、此点が必要なるは畜產家や貯藏人の尤も感ずる處である、ラバロイドは時としては此等の建物を床板の代りに使用される、さうすれば何時にても奇麗に掃除が出來るし且つ虫類を除ける、糞尿類の爲に汚されず其他何種の液體にも少しの變化を受けない。

ラバロイドの修繕は極々少しの費用で濟むのである。

▲防火用としてのラバロイド
密接してゐる家屋では耐火煉瓦や石綿なぞを使ふて火傍の防ぎとするのであるが高度の熱を受けると此等の物も其效を爲さぬとがある、今茲に高度の熱と云ふ言葉を用ふるが鍋や鉛板や鐵板は如何なる高度の熱にも燃ねはしない亦溶けもしないが其內部の物品を焦げさせて了ふ、若しどうしても熱くならない瓦があるならば火炎を鎭める計りで無く、其蔽ふてゐる物品を安全に保つとが出來る、おほくは火事の場合に若し屋根の上に立つて自在に消防夫が働らいて水を注ぐとが出來たら類燒を助かつた家屋が如何におほかつたであらうか、鍋張りの屋根では屢々消防夫の靴を焦らした例があるのだ。

石板は熱の爲にハシケる、タールや木板では只火を導く計りである。

ラバーイドは屢々火事に出會つたが予輩は其總ての場合における防火上の性質を調査して見ると決して火に燃ゐない事を證明する、尤もラバロイドなる物は燃さうと思つても決して燃ゐない物質で之を瓦に製すに當つて尙更に注意に注意を加へてある、始め此瓦を作る時は華氏の數百度の熱を以て試驗する、そして製し上げるの時其兩面に耐火質の混合液を塗るのであつて火の中にも水の中にも充分耐ふる可き性質を備へさせられてある。

米國の各市區の役所では此ラバロイドを以て改良せる耐火質物品の部に記入してゐる

ラバロイド製造所では一卷毎に其附屬品と共に何時にても需用者に送附する。

若し尙詳細の事を知らんと欲する人は南濱通りの北海屋に就いて聞く可した。

▼昨年の今日▲

元の極東總督アレキセーフなる人は。東洋禍亂の根原を撒ける奸佞の徒どして。世界の人に排斥せられてある。彼れいまだ總督たる時。東洋艦隊を奇襲せられ。次で鴨綠江に大敗し。露帝の赫怒に逢ふて還々逃げ去り。代つてクロハトキンが總指揮官になつたのは昨年の今日である。誰が指揮すると雖。日軍の前には旭日の前の霜の如く。彼れ黑鳩も亦頻りに大敗し。辭職を申出でゝある。

朝鮮日報

小説

新作小説 松撲樣（中）　東京 愛翠生

火鉢の縁に輕く煙管の吸殼を叩き乍ら、太息を吐いたは、紺の印半天に紺の股引足袋を穿いた、五分刈頭の色淺黑く、眉毛の濃い、明眸とした二重瞼の眼の、額廣く鼻の隆い、いかにも男らしう氣丈夫に見ゆる、骨格の極めて好さゝうな、職人体の男。

「お松、どうしやうな、お前一人ぢやア如何うする事も出來やしねえだらう。」

胸ゑ苦悶を画いてゐた、お俠氣質のお松は、それとは顏に憂色をあらはさで。

「妾し一人だつて、どうかしますわ。」

「どうかするつて、高が女一人ぢや迚うする事も出來やしねえぢやねえか。」

「だつてね、產湯つかふとすぐつから、攫取るあとばつかり仕込まれて來たんだもの斯ういふ時に應用はなくつちやあ、仕様がありやしないわ。」

「なる程それもいゝだらう、他人もお前の事を、並ぅへの標緻と言つてる程だから、そりやあ藝妓にや、必度もつて來いだらう」

「しかし兄さん、新さんが可哀想よ。今晩も先刻やつて來てね、もし召集された時、女房小兒の後の事に付て、兄さんと相談しときたいといつて來たのよ。」

「そりや可哀想だな、おやあ今頃は蛇度嬉し泣き顔つてるだらう、全体に氣の弱い男だから。」

「可哀想にねえ。」と、お松は溜息ついてホロリ、悉氣たやう。

「眞實に如何かしてやりていもんだ、といつた處で、此方もその通りな譯だから、困つちまふんでさ。」と、源之助は兩腕を組んで、思案の眉をひそめた。

「のう松、此場合に新公を救げなけやあ、兄弟分の義務がたゝねゑな。」

「さうねえ、だけど兄さん、いゝわ、さう心配しなくとも[illegible]

「けれども、なか〳〵さう旨くは[illegible]

「妾やう位の事は出來ると思ふわ、きつと。あの、そら、去年迄妾と一緒にお師匠樣のとこへお稽古に行つてたお花ちやんね、此間島田の「喜多本」へ入つたのよ。そして[illegible]扶養つてる位なんだもの、妾だつてお花ちやん位のことア、さうしたつて出來ると思ふのよ。」

「お前がさう[illegible]てくれるならば[illegible]に爲いんだが、さうすれあ、新公も女房も、何那に嬉がるかしれねえし、また兄弟分の義務もたつわけだ。」

「兄さん、妾し、必度、さうするわ。」

「有難てい。」

「ぢやあ妾去れから、新さんとこへ行つてさう言ふわ。一刻も早くさう言て嬉ばせる方がいゝわね。」

「さうすりあ何はいゝんだが、今夜は大分おそいぢやねえか。」

「なに、構やしないわ。」

と、お松はちよいと髮に櫛入れて、襟紋れ繕つて起ちあがり、ひらりと肩掛を着流して、表戸に出でた。

「すまねえ、お松、おやあ氣を附けて行つてくれねえよ。」

「はい、兄樣はもう臥んでらつしやいな、大急ぎで行つて來るから。」

闇を吹き荒む風は、夜露の凍る程冷たくなつて、電車の軋る音も絶ねたのを見れば最う、夜は彼れ是れ拾二時過ぎであらう。

●砂須土原怒りの黒髪　兎角浮世は花に風、時雨る夜に有明の月もかゝる辛氣なやと言へばそれとは其處らの粋チヤン口眞似だが江山風雨多く世上好事魔多しとかで榮華の樂しみも其身のとは麗頭の極の渡に照る月も儘にならぬが浮世のならひ姿の胸の若さみはアゝ何としようぞやと寢亂れ髪の二筋三筋を恨めしさうに嚙みしめて床に飾りし招きの猫に泣言を繰りつ返へしつ愁ふしづみあらるゝ姫御前と云ふは色の巷のサストパル第一いろは樓にさる者ありき知られたる梅吉となん稱しはんべるスコ的劣實なる婉々たる縫めかしき面の笑靨は釜港數多の男子を陷沒し玉ふとか否やは知らねど女郎道一点張の東西南北主義の剛の者と漏れ聞くの怪腕指子此れに想を寄するは程遠からぬ西町の片邊りに當世業平朝臣もかくやと疑はるゝ色野白太郎と云ふ男なるが不斗したより今は揃切り紋切り此世は愚か二世も三世もと淺からぬ想に戀みがれありしも男心と秋の空變り安きの譬でサア可愛〳〵白太郎には[illegible]と怪しき契りを結び[illegible]を見せず浮れ込むで[illegible]松吉滑姫ならねどチン〳〵男を鞭取りし[illegible]可さやと此前の日曜[illegible]て恐みつ歎げきつゝその涙を水として書く[illegible]思ふ靜之助に送りて[illegible]と鄰進の囀る鶯や臆[illegible]る岐戀の裏門派手に[illegible]と入れるや否や後の便[illegible]

●濱線中の火事　一昨日終列車が太田驛に着せんとする頃突然貨車に滿載したる米俵より出火したる騒ぎに驛員等必死となりて消防に盡力したる結果漸く消止めしが之れが爲めに滿載米より損毀したる該米五百石は大部分に損害を及ぼしたり

投書函

○百字以上を用るなかれ
○廣告吹聴にするなかれ
○人身攻撃に渉るなかれ

▲[illegible]の郵[illegible]家を一掃すべし（急進黨）▲某罐詰所の女工で或る郵便局員の妻であるを何は同所の女工取締の役人が重ならぬ容を契りて此頃亭主殿の知る處となり一方ならぬ騒ぎを起してたが結局お何は亭主より女工を廢めさせられたが中々泉の事を思ひ切れず毎夜〳〵と泣いて居る相だ（馬鹿なあと）▲龍頭山など　時や歌やに謡はれて非常に宜い山だと思ふたら何んだ馬鹿々々しい痩せ松の木五六拾本ある禿山サ（山燒けた生）▲ウト〳〵と眠つたゝ思ふとフハ〳〵した雲が自分を乗せて故郷の山や川近くに飛んで行く▲妹が美しい花を握つて僕を待つて居る夢を見た（春の子）

●大商店訪問記

○○○乾物店（山下町）
店主留守なるを以て店員某氏と火鉢を擁まて語れり乾物店は同業者がれ增く隨つて競爭も熾んな譯から余り面白い方ではありませんよ殊に當地は魚類がおぼいので雨でも降る時でなければ思ふ樣でないです而かし昨今は客足の附いて居る方でございます云々店内の装飾到れり盡せるのみならず下甲板にまで意匠廣告をなせる杯文明的商店といふべし

○○○佐々木藥店（幸町）
主人は頗る人格の高き人にして稀に見る人品家也二階の書室に通され珈琲などの饗應を受く左樣拙店では行商員は一向出して居りませんから其の成績も申し兼ねますが何れかといへば結果が宜い方でございませう私は一体此商業を好んでやつた方ではなかつたですが父兄相次いで死亡に之れを引受けてやることになりました韓人一般氷く繼續して服藥せぬといふ人があり隨すが初め注意して飲ふればそんな患はないです云々店内隅を見渡しに整然として記者が理相的商店なり

○○○立志社（印刷所）
主宰者尾島氏は新聞記者の職ゝ多年あり記者を階上に導かる印刷上の話よりと文學上其他の談話に花が咲き夫人が勸めらる茶に幾度か咽喉うるほしたり立志社は目下大擴張を爲さん計畫なりと

○○○正木商店（罐詰販賣店）
辨天[illegible]正木商店を訪問す若き店員[illegible]一人と語る[illegible]でございますが左樣[illegible]弗々あり[illegible]ます拙店の元料は牛肉を除く外は皆大坂から仕入れて居ります矢張り大阪より仕入れた方は宜く思はれます酒ですか左樣……あれも繩貨は弗々ありますと云々店内の商品燦然として花の如く一層愉快の念が打たれたり

▽釜山商況△

米穀類、肥料物、精糖、石油、石炭、砂糖、麥粉共凡て商狀に於て異狀なく繩叺及び木綿類は未だ斷万の狀況より獨り水産物は倍々好況にて鯛の如きは滅切り高値を顯はせり

▽相場△

米穀類　別上等韓米拾參圓△全一等十二圓七十錢△地精米十二圓卅錢△中上米十一圓△中米十圓六十錢△並米十圓△上大豆七圓卅錢△並大豆七圓十錢△小豆十圓△大麥六圓○五錢△小麥拾一圓七十錢△胡麻十一圓△荏了八圓八十錢
肥料物　油粕二圓二十五錢△牛骨一圓七十錢△蜂蝋一圓十五錢△地糠八十二錢
皮類　牛皮三十九圓
燃料　塊炭四十圓△切込炭三十圓△粉炭二拾七圓△世昌石油二圓九十五錢△スタンダード石油三圓三十六錢
麥粉二圓三十錢ヨリ二圓五十錢迄
精糖九圓五十錢ヨリ上品十二圓三十錢迄
淺野セメント二圓七十錢
木綿　尾州上等品一反六十五錢△中等一圓四十五錢△一圓十七八錢△洋金巾上等七圓五六十錢△中等六圓六七十錢△下等五圓五六十錢

魚市場

八百九十八圓三十五錢水揚高▲鯛千貫目三十圓▲ハカ仝十四圓▲鰤八圓五十錢▲平目仝十圓厄鯛仝十八圓▲鯖仝二十六圓（廿一日）五百六十九圓四十一錢水揚高▲鯛十貫目三十二圓▲鯖仝八圓▲平目十圓

第十六期營業報告

貸方　負債之部

諸預金	一、二九二、八四一、九八
借入金及再割引手形	二三四、五一一、六一
他店ヨリ借（九十五箇所）	九七、六一七、〇三六
資本金	五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
優先株式申込證據金（新資本金五十万圓）（壹万株）壹株壹圓ノ割	一〇、〇〇〇、〇〇〇
支拂未濟配當金	[illegible]
支拂未濟利息	[illegible]
當期純益金	[illegible]
合計	二、一五五、三〇八、六四

借方　資產之部

諸貸出金及割引手形	一、三二七、五九一、九五
荷附爲替手形	[illegible]
預ケ金	[illegible]
他ヘ貸（三十九ケ所）	[illegible]
諸公債證書及社債券	[illegible]
營業用地所建物及什器	[illegible]
抵當流込物件	[illegible]
金銀勘定	[illegible]
合計	二、一五五、三〇八、六四

損益勘定
一金二十三万千八百五十四圓十四錢　當期總益金
一金貳十一万千八百七十四圓二錢　當期總損金
差引金壹万九千九百八十圓十二錢　純益金
此配當計算左ノ如シ
一金五十圓　積立金
一金壹万二千五百圓　配當金（年五分ノ割）
一金千九百九十八圓　役員賞與金
一金四百八十貳圓十二錢　後期繰込金
右之通リニ候也
明治三十八年一月
大坂市西區北堀江通五丁目
株式會社第五十八銀行
取締役頭取　富士田九平
取締役　今井勢兵衛
同　揚井松太郎
同　揚井猶藏
同　高橋眞澄
監査役　富士田卯之助
同　養田常三郎
前期ノ各項調査ヲ遂ゲ其正確ナルコヲ保證候也
追テ監査役任期滿了ニ付改選ノ結果重任ニ決セリ

朝鮮日報

日本郵船會社 瀛船釜山出帆廣告
日東丸 長崎門司神戸行 三月一日
ヲハヨー號 仁川鎮南浦行 二月廿六日
荷客取扱所 大池回漕店

大阪商船會社 汽船釜山出帆廣告
木浦仁川鎮南浦行 義州丸 三月三日
同 丸 月 日
安東丸 二月廿六日 同 二月廿三日
群山丸 二月廿四日 一月廿一日
川行 バイキング 二月廿八日
アンジチ號 二月廿二日 一月十九日
馬山浦木浦群山行 蒼龍丸（馬山に寄航せず）全 二月廿五日 全 一月廿二日
馬關神戸大阪行 天照丸 三月一日
蒼龍丸 三月三日
バイキング 一月十九日 二月廿三日
義州丸 二月廿四日
木浦丸 二月廿七日
アンチチ号 二月廿七日
安東丸 三月二日
鎮南浦下關神戸大阪行 朝日丸 二月廿七日 午前六時出帆
元山行 天照丸 全 二月廿三日 全 一月廿一日
浦鹽線 瑞鷹丸 仁川群山細航週三回仕復
大阪商船株式會社
瀛船釜山出帆廣告
元山行 防長丸 二月廿二日
浦門丸 二月廿三日
荷客取扱店 三木回漕店 電話八三番
同海岸出張店 電話一七二番
堀商會 瀛船釜山出帆廣告
京畿丸 定期檢査中
慶尚號 全
木浦仁川行 慶寶丸 正月十七日 二月二十日
元山行 盛号 陽 正月廿六日 陰 二月廿三日
泰正成丸 仁川群山間航海中
堀商會汽船釜山代理店 本町海岸郵便局前 山川回漕店 電話一七八番

松前丸 汽船門司長崎池田行 陽 正月 陰 二月 日
仁川行 幸光丸 全 正月二十日 全 二月廿二日
寧静丸 野村汽船群山仁川行 全 正月 日 全 二月 日
貫効丸 陽 一月 日 陰 二月 日
釜山港荷客元扱 本町通海岸郵便局前 山川回漕店 電話一七八番

大川運輸株式會社 深川瀛船 釜山出帆廣告
定期運航汽船 若津丸 嚴原唐津行（九州線道ニ連絡ス） 二月廿三日 午後六時
中上回漕店方
荷客取扱店 國中商店

馬山浦行 山陽丸 陽 二月廿五日 陰 一月十九日
午後二時出帆 荷物締切午前九時 八頭司運送部

大阪商船 瀛船釜山出帆廣告
馬關神戸大阪行 神代丸 陽 二月廿三日 陰 一月廿一日
關神戸大阪行 第二崇敬丸 全 二月廿六日 全 一月廿五日
仁川鎮南浦行 大有丸 全 二月廿四日 全 一月廿二日
荷客取扱店 大池回漕店

瀛船釜山出帆廣告
元山行 第八永田丸 陽 二月廿二日 陰 一月十八日
馬關神戸大阪行 ダダマル號 二月 日
仁川牙山浦行 スルベルグ號 二月 日
門司神戸横濱行 マサコタ號
釜山運輸組瀛船 第四共同丸
沖永回漕店（電話貳百貳拾七番）

廣告
世昌洋行瀛船乗客貨物元取扱引受候ニ付御便利ニ御相談可仕候間多少ニ不拘御申込被成下度此段廣告仕候也
北濱一丁目 齋藤孝藏

濟州門司神戸大阪行 世昌洋行汽船出帆廣告
ダクマル 二月 日 午後五時出帆
仁川濟行 スルヘルク 二月 日 午後五時出帆
世昌洋行汽船取扱店 元 ㋚ 齋藤回漕部

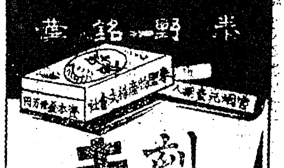


東京大慈本店製
ツバメ印
香竄葡萄酒
賣捌店
草梁大慈支店
釜山北濱 粟谷出張店
釜山本町 萩野店
仁川 土井

京城泥峴一號地ニ滞在シテ契約起案民刑訴訟ニ係ル法律事務ヲ取扱フ
東京辯護士會 辯護士 皆川廣濟

商標
驅毒 清體 麻病藥
임질의 는 무쌍 혼 신약이요
麻病 あよかち、くさの妙藥
製劑發賣局 滿韓賣藥商會

韓國釜山港本町
藤井文平商店 電話貳四參
石鹼
バイプ
綿毛布
洋蠟
洋傘
メリヤス類
洗曹達 香油
鏡各種 タチル 石油
硝子器 素麵 うどん びん
附眼鏡類 和洋紙 まつち 韓人帶 諸金物類
其他韓人向雜貨一式御注文ま應じ如何なる品にても薄利大勉强仕候間ドシく御注文の程奉願候也



米野一銘葉
刻煙草は キリン を御試みあれ
韓國總發賣所
賣捌處は 大阪 齋藤 商店 釜山

謹告
拙者儀今般家具、建具、屏風、額面、掛物、金銀箔置等表装業致候處各位の御愛顧により日に増し繁栄に赴き候段奉感謝候然る處目下の時局に鑑みる所有之自今毎月收入金之内諸費を扣除し殘額は擧て之を陸海軍恤兵部に献納し以て聊か報國義務を盡さんと欲す希くは各位生王の微衷を御洞察被成下多少に不拘御用命被仰付度候也
西町二丁目隊列前正面通り 福村松旭堂

二十世紀の發明に係る
開明墨
本品特色は第一値段が安くて携帶に便に且つ普通の墨色と毫も異る事なく水縮せざるは勿論磨墨せる煩を省く
會社商店一度び此開明墨を試驗すれば此の上もなき極々輕便品
見本入用のお方は三錢郵券二枚を送附あれば直に送附す
韓國一手販賣 西町二丁目拾五番地
北濱町一丁目 田口啓東堂方
取次所 あさた きらし

陸軍御用釜山罐詰所共製品
滋養牛肉ソップ販賣
南濱二十八番海岸通
二合代貳錢
平田秀吉

材木建具廉價販賣
富平町精米所前
平松商店

㊂印 醬油
釜山北濱通 水野巖商店
鳳 鳳 龍 寅

大坂毎日新聞 一ヶ月代 拾八錢
萬朝報 一ヶ月代 三拾錢 戰大割引
幸町一丁目長手通 山口新聞舗

丁寧親切
南濱地六番町 柳井旅館

獸醫 中尾祐祚
商平町拾七番地 電話百拾四番

板材木廉價販賣
其他石灰竹瓦
南濱海岸通 島末商店

風邪良藥 妙振出し
安質比林丸
醫科器械類
和漢洋藥類
釜山本町 藥劑師 弓削盛藥舖

精白米廉價販賣
石炭米共俵賣仕候
南濱町海岸通四ツ角 西原商店

勉强御下宿
南濱一十八番地海岸通 伊豫屋

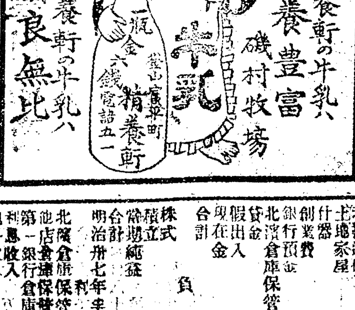
唐津石炭
カラ炭
辨天町一丁目 國安商店 電話一七一

共生齒科醫院
釜山幸町南濱通一丁目拾五番地

會席御料理 仕出し
西町三丁目（電一二三） 春日

磨擦米廉價販賣
富平町 岡本商店

歐米時計各種
附屬品各種鐵側色付
電氣メッキ 金、銀、赤銅、ニッケル、保險付
修繕 確實
幸町一丁目 園田時計店（電話二一〇番）



靑物乾物
砂糖麥粉
西町一丁目 遠藤商店 電話架設中

齒科診察治療時間
自午前八時
至午後五時
但日曜日正午十二時限
齒痛患者ハ此限リニ非ラズ
西町三丁目卅八番地 深江齒科醫院（電話二百五十二番）

◎東京日々新聞◎報知新聞◎大阪新報◎
朝鮮唯一の大新聞 朝鮮日報 一月卅錢 配達快速
廣告印刷大勉强取次
大邱方面一手特約販賣所
雜貨商 ㊉ 朝日商會
◎大阪朝日新聞◎大阪毎日新聞◎朝鮮◎
◎萬朝報◎日韓語學書◎ ◎朝鮮評論◎日露戰記◎

支那料理
東京そば
西町三丁目 東庵

株式會社第一銀行支店
電話十二番
資本金 壹千萬圓
積立金 百七十万圓
明治六年設立
本店 東京
支店出張所 京城 仁川 群山 木浦 鎮南浦 元山 平壤 大阪 神戸 横濱 名古屋 京都 四日市 兵庫 長崎 伏見 ...
取引先
爲替
諸預り金爲替貸金其他銀行一般業務多少ニ不拘御便利御取扱可申候
頭取 澁澤 榮一

釜山倉庫株式會社
第拾五回決算報告
明治卅七年下半期貸借對照表

未拂込株金	九〇、〇〇〇、〇〇〇
土地家屋	[illegible]
什器	[illegible]
創業費	[illegible]
銀行預金	[illegible]
北濱倉庫保管料未收入	[illegible]
貸出金	[illegible]
假出金	[illegible]
現在金	[illegible]
合計	[illegible]

負債之部

株式	[illegible]
積立金	[illegible]
當期純益	[illegible]
合計	[illegible]

明治卅七年下半期損益計算

利益之部

北濱倉庫保管料收入	[illegible]
池店倉庫保管料收入	[illegible]
第一銀行倉庫保管料收入	[illegible]
利息收入	[illegible]
地料收入	[illegible]
合計	[illegible]

損失之部

池店倉庫保管料割戻	[illegible]
第一銀行倉庫保管料割戻	[illegible]
火災保險料	[illegible]
給料	[illegible]
營業費	[illegible]
合計	[illegible]
差引純益	[illegible]

當期純益金 金四百五圓七拾錢也
内
積立金 金八拾五圓七拾錢也
賞與金 金六拾圓也
配當金 金貳百六拾圓也
一株ニ付五拾貳錢四歩ノ割

前記之各項調査ヲ遂ケ其正確ナルヲ保證候也
當期株主總會ノ決議ニ依リ任期滿了ニ付再選重任ヲ承諾ス
專務取締役 迫間房太郎
取締役 保家貞八郎
同 阪田與市
支配人 鎌田七郎
監査役 矢野寛一郎
同 稲田増兵衛
... 改

右之通相違無之候也
明治卅八年一月
釜山倉庫株式會社

● 釜山天氣豫報
北叉西の風 晴（二月十九日）

● 韓錢相場

京城 草梁 釜山 ... 前日 ... 後日 ... 東行 ...
[illegible]